

11
2018

三重病院

ニュースレター

news letter vol.231

- 01 アレルギーのお話〈ワンポイントメッセージ〉
- 02 「臨床研究部からのお便り」—第11回—
通所支援事業
- 03 5病棟の生活のひとコマ④
「やまぼとギャラリー」情報コーナー
小児肥満の短期入院を始めました
- 04 Medical Safety Letter 安全便り〈11月〉
外来からのお知らせ／外来診察のご案内



アレルギーのお話

ワンポイント
メッセージ

みなさんこんにちは、アレルギー科です。

朝夕冷え込む季節になりましたが、いかがお過ごしですか？

アレルギー科では、食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息・アレルギー性鼻結膜炎・蕁麻疹などいろいろなアレルギー疾患を診療しています。

アレルギー疾患の中でも、特に食物アレルギーやアレルギー性鼻炎を持つ患者さんは増えていると言われています。でも、一方で、新しい治療法や治療薬が開発されるとともに、「うまくコントロールして、快適に、元気に過ごせる」方法もわかってきています。三重病院では、ガイドラインに基づいた標準的な治療を行い、こういった新しい、また効果の期待できる治療に積極的に取り組んでいます。

今回は、アレルギー外来を受診されている患者さんの数が多い食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息についてのワンポイントメッセージです。

食物アレルギーについて

食物アレルギーの対応で大切なのは、『正しい診断による、必要最小限の原因食物の除去』です。特定の食物を摂取することによりアレルギー症状がみられた時に、食物アレルギーを疑います。それを血液検査や実際にその食物を摂取する経口負荷試験などを行うことによって診断します。血液検査の結果のみで食物アレルギーがあると考え、摂取を控えている方を時々みかけますが、その中には食べてもだいじょうぶな人がいます。食べてアレルギーの症状がでてしまったらどうしよう！と心配になる気持ちも含めて、かかりつけの先生や専門医に相談してくださいね。どうするといいか一緒に考えましょう。

アトピー性皮膚炎について

アトピー性皮膚炎では、痒みのある湿疹が、慢性的に良くなったり悪くなったりを繰り返します。アト

ピー性皮膚炎の病態は皮膚の炎症で、その炎症を抑えるために使用する薬のメインとなるもののひとつがステロイド外用薬です。しっかり治療をしていてもなかなか症状がよくなりえないと思いついても、薬の塗り方やスキンケアの仕方を少し変えるだけで、皮膚をキレイにできることがよくあります。どうせステロイドを塗っても良くなるから…と諦める前に、正しい外用とスキンケアの方法を学んでみましょう。

気管支喘息について

小さいお子さんはちょっとしたことでゼーゼーしてしまうので、喘息の診断はときに難しいことがあります。たいせつなのは、喘息と診断されたかどうかより、どれくらいぜいぜいで困っているのか、です。ぜひ、かかりつけの先生、専門医に伝えてくださいね。喘息の予防薬を続けている方は、調子が良いと、つい自己判断で薬を中止したり、通院するのを止めたりする方がありますが、悪化してしまう可能性がありますから、本当に薬をやめていいのか、相談してください。

ところで今年の秋は、気管支喘息で発作が出てしまった方が多かったように思います。まだ原因ははっきりしていませんが、実際当院でも入院される方が続きました。皆さんはいかがでしたか。秋は一年の中で一番発作が起こりやすいとされていますが、冬は冷気を吸い込むことなどがきっかけとなって喘息症状の出るリスクが高くなります。冬に限りませんが、運動した時に少し咳が出ることが当たり前になっているような方はいませんか？もしかするとそれは喘息の症状かもしれないので、ぜひ自分から診察の時に知らせてください。

そんなこといっても、なかなか言えないよーと思うかもしれませんが、私たちが患者さんがどんなふうにご覧に感じておられるかをよく理解して、よりよい治療を提供したいと考えています。よろしくお祈りします。

(アレルギー科 鈴木 尚史)